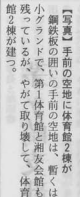


ブレハブ校舎で授業開始



印刷所
藤沢印刷株式会社
0466 (26) 3135



【写真】手前の空地に体育館2棟が鋼鉄板の囲いの手前の空地は、暫くは小グランドで、第1体育館と湘友会館も残っているが、やがて取り壊して、体育館2棟が建つ。

校門は通学道路の中央

2階建プレハブ校舎が、運動場に並立
完成。アスファルト舗装も終って、4月
木に移転を終了し、授業を開始した。
5月以降は、現校舎の解体、樹木等の
移転、整地終了次第、改築工事が始まる。
思い出が姿を消す

第二体育館（赤木体育館、清明会館）
（昭和5年完成）、を始め総べて
の建物施設が姿を消す。樹木のうち、卒
生寄贈の樹木、校門の大楠、赤木苑の赤
松等は、一時移植して、改築後の緑化に
生かされる。仮校舎を取り除いた跡は、一
周300mのグラウンドとなる。

改革に対する湘友会の協力

クラブ活動にOB会の協力
運動場が使用できないため

母校改築に湘友会の

湘友会長 杉山 巖

運動場いばいに二階建のプレハブ校舎が建ち、月下下校に終りました。レハブは、想したより良のみに見え、多、先生方も不便な点も多く、先方も多々変化するのと思ふ。各校の困難点を、潮友会もて和するだけの協力を要する方針に決めた。既に確認していますので、学校側と相談して実行して下さい。

殊にクラブ活動は、校内の施設を使用して、他の施設との交渉や費用の交わす、費用各〇〇〇の必要感謝しております。もう一つ、こ

生(250)が中卒、百五十名、百十名、これ十番目部ができました。

北原隆太郎氏の総会での講演

父は赤木先生の理念に共鳴していた

降太郎は、昭和8年1月2日、父白秋に連れられ、湘南中学を訪れた。時に11歳の小学生で、赤木先生や蜷江先生・香川先生らのことを憶えている。

東京大学から京都大学の長教育理念が、作詞家として確に配され、しかも望に動してゐる。降太郎も父粒種のルミ君が湘南に学(65回) 父母の出身の因に在学しているのも、因を感じる。

田先生の門下生となり、夢野を重ね禪字を深めた人だから、話話中もしくはば禅語が飛び出し

白灰は、赤木先生に共鳴していたらしいから校



縣立

天野式一書軍毫の交票



湘友会総会のご案内

6月20日(日) 午前10時 (ブレハブ教室で)

(演題) 子供の遊び環境の変化と日

当日は、文化祭で、生徒の研究発表・合唱会・演劇等があります、何分にも手狭のでご了承下さい。

◎講師紹介Ⅱ東京工業大学教授

太田君(34回)の講演…スペインの文化と人

ビンゴ：沢君（22回）の絵の争奪

藤沢支部 夏のつ



年間、バイクを駆って、田舎の隅々まで見て廻った。今夏も2ヶ月間スベインを放浪したというスベイン派が、多民族複合国家のスペインの歴史は、百年に一度ずつでかいた事をするところ、コロンブスや無敵艦隊（1492年）には米国人に敗れた歴史を列挙。スベイン人は感性に優れ、美術面でもヨーロッパ、グ・ピカソ、ゴッダウ・巨匠が輩出した。スベイン人は、国家意識は希薄

横須賀支部

(上)第1回総会(4.11.14)

(下)第2回総会(5.4.17)

(下)第2回総会(3.4.47)

横須賀支部
発足総会（4・11・14）
150名もの会員が居
する横須賀に、支部結成
の運びが、栗林松
（25回）を中心に準備が進
められ、昨4年11月14日発
足、栗林支部長、斎藤幹
長等の役員も決まった。

第2回総会（2回生から
53回生まで）

誕生 沢田秀男君(27回)を激励

誕生 沢田秀男君(27回)を激励
沢田秀男君を激励
米とて杉山会長
来てゐる。杉山会長
へて、系田参事、
藤先生、27回の年
小泉が出席して、4
1日(6)から、さ
の屋本君、43回・店
の諸君を会合して、
見守る。45名が33
された。47名が参
45回の荒井君の司
つた。

27期会卒業40周年記念

34組が幹事となり、卒業40周年記念の会を演出了た。年6月12日(金)、八重洲富士屋ホテルで、150名の職員と、吉崎来賓が集まり、バンド演奏で盛り上げた。期日の15日、矢田君の10号の油絵を卒業40周年記念とし、母校に寄贈することとし、総会に移り、三井物産幹事の告、三好幹事の会計報告が終って、和田会長より贈呈



た。「江の島好日」
号油彩・吉崎道
君（一水会審査員）
『甲斐駒桜』10
油彩・矢田健爾
（フランス・サロ
ン・ナショナル会員）
葉山市長の発
で乾杯して懇談
に入った。

時間の概念を誤し、女性によく働き、男はたよりない。

モットーは「興味深い道を
実例を挙げて展開してい
た」。

ビンゴの賞品！
沢庵伯の画

今年もビンゴ
の賞品は、沢
庵(父岡)のヒ
ツメのスケッ
チをならべた
「ぼくがゲーム
にでた」4点中
の1点。

A black and white photograph of two men standing and holding a large, framed drawing. The man on the left is older, with glasses, wearing a light-colored short-sleeved shirt and dark trousers. The man on the right is younger, with dark hair, wearing a dark jacket over a light shirt. They are both smiling. The drawing they are holding is a landscape scene with a traditional Japanese building, possibly a temple or a house, with a thatched roof and a garden. The drawing is mounted on a dark board.

一水会員の小泉君は、水泳部OB。昨年の湘泳会60周年記念に際し、プールの油彩を母校に寄贈した。



17回卒業50周年記念

記念誌 松蒼く 刊行

17回生は、11月21日藤沢グランドホテルで、卒業50周年を祝う会を催し、記念誌を発行した。「松蒼く(写真)」在校中の思い出を79名が寄稿。12年の入学から17年卒業までの湘中の歴史が生きたと語られている。

313ページ。亡き恩師の揮毫を巻頭に、在学中の年譜を末尾に加えて、母校・湘友会にとっても貴重な資料である。



30回生 第5回総会 (ウィング)

11月7日 3時から、80名の会員と、先生13名が集まって総会を催した。来賓を代表して望月先生のあいさつのと、女子の石井君の音頭で乾杯して懇談に入った。

石川いっせい先生の全歌集

書名 石川一成歌集

発行所 ながらみ書房
〒101 東京都千代田区西神田2-7-5-405
電話 03-3234-2926
振替 東京6-124296

定価 8,000円
所収 第一歌集「麦門冬」 昭和50年白鳳社
第二歌集「沈黙の火」 昭和50年白鳳社
遺歌集「長江無限(村重慶日記)」
昭和60年ながらみ書房
以上に加えて、「麦門冬」以前の歌を「初期歌篇」として加え、全 528ページ

「いっせいさん」と呼んで、心の師と慕い続ける多数の教え子は、既に鎌倉に碑を建立、『回想文集石川一成先生』を刊行しているが、今回恩師の全歌集の上梓にあたり、広く同窓生の購読を念願している。
(責任者 鈴木直人(36回生) 経営コンサルタント)

31回生同期会 (4・8・22)

31回生が4年8月22日、第6回同期会を藤沢グランドホテルで開いた。恩師の青山・斉藤・石井・細谷先生、会員70余名が出席し盛会だった。実家やホテルに泊まって遠路はるばる駆けつけた人もあり、卒業後初めて参加の者もいて、恩師を喜ばせた。なお当日写真を撮ってくれた野口元君が急逝された。冥福を祈る。
(内海記)

吉川地蔵の日曜巡錫

吉川 精一(34回)

母ちゃんと近藤と



湘南紳士録 (30)

荒間 蒼海